

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：12612

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K13429

研究課題名(和文)「気球」の誕生と近代ロシア文学に見る批判的異文化受容 フランス崇拜からの展開

研究課題名(英文) Birth of Air Balloon and Critical Reception of European Cultures in Modern Russian Literature

研究代表者

金沢 友緒 (Kanazawa, Tomoo)

電気通信大学・大学院情報理工学研究科・講師

研究者番号：20785828

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：フランスの熱気球実験成功以降、ロシア国内で気球実験禁止令が施行された前後の時期に、気球に関連する作品が複数発表されたことが、本研究を通じて明らかになった。これらの中にはエカチェリーナ2世の気球実験に対する慎重な姿勢を反映した作品も認められた。女帝の政権の保守化の主たる契機を、1789年のフランス革命とするのが一般的な見方であるが、他方でフランス崇拜に対する冷静かつ批判的な視点は、既に革命以前から皇帝及び周辺の知的階層の間で共有されていたのである。同時期のロシア文学にみる「気球」の描写もまた、西欧諸国との関係の中でフランス文化を相対化する動きのひとつであった可能性を、本研究で明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来のロシアの異文化受容の研究においては、近代西欧の先進国モデルであるフランス文化の所産が肯定的に受容されてきたという理解が定着してきた。しかし、本研究は、むしろ実際は18世紀ロシアにおいてフランスがドイツやイギリスとの比較の中で選択的、批判的に受容されていた、という立場からアプローチを試みたものであり、そのことによって、これまで看過されてきた諸視点を提供することができた。また、「気球」を単に科学的成果として捉えるのではなく、文学・芸術・経済・政治等の多数のジャンルに跨がる多面的な研究の対象として設定したことで、新たな文化研究のモデル・ケースを示し得たと考える。

研究成果の概要(英文)：This study reveals that in the period around the time of the banning of balloon experiments in Russia, several literary texts mentioning air balloon were published in Russia.

It is generally accepted that Catherine II became particularly conservative after the French Revolution of 1789. Even before then, however, the empress and the intellectual elite around her were critical in their acceptance of French culture and attempted to distance themselves from blind French worship. A series of balloon experiments during that era can be viewed in the context of the reception of French culture in Russia in the 1780s. This study concludes that the use of the railroad motif in Russian literature during this period was one of the phenomena observed in the process of Russian modernization, in which France was being relativized in comparison with other European countries.

研究分野：18世紀ロシア文学 19世紀ロシア文学 ロシア文化 比較文学

キーワード：ロシア文学 気球 18世紀 フランス エカチェリーナ2世 啓蒙 ドイツ

1. 研究開始当初の背景

近代ロシア文学の歴史において、特に18世紀～19世紀初頭のロシア文学が西欧の文学的思想的著作の原典やその翻訳、翻案に大きく依存する形で成長を遂げてきたことは、既にロシア国内外の研究の中で指摘されており、P.N.ベルコフ、N.D.コチェトコーヴァ、P.A.オルローフ等、ロシア研究者達の仕事によって、具体的な裏付けもなされてきた。

そして、これらの先行研究は、しばしば作品間の影響関係を重視する傾向にあった。例えばルソーの『新エロイズ』やゲーテの『ヴェルテル』がロシアで受容され、翻訳紹介され、その結果どのようなロシア語作品が生まれたのかを、テキストの分析を通してつまびらかにすることに関心が向けられたのである。

それに対して、西欧の影響下にロシア語作品とその書き手である作家が登場した歴史的、文化的な文脈を明らかにする作業は未だ十分とは言えない。しかし西欧がロシアの近代化に果たした役割とその意味を理解する上では、社会的文脈の調査はむしろ必要な作業と考えられる。こうしたこれまでの研究事情を踏まえて、本課題では、ロシア文学における西欧受容の実態を、従来のようなテキストの比較分析ではなく、当時の西欧とロシアの社会的関係の調査を通して明らかにすることを目指した。

なお、本課題申請者の金沢は、近代ロシアに対するフランスの圧倒的な影響力を再考し、相対化する立場をとっている。無論、近代西欧文化を牽引する先進国としてのフランスがロシアに与えた影響の大きさは言うまでもない。しかし、申請者は自身のこれまでの研究の中で、18世紀ロシアはフランスにやや遅れをとっていたドイツ文化に自国の文化発展のモデルを見出していたのであり、同時にドイツ文化に学ぶことでフランス文化を相対化する視点を獲得していった、という結論を得ており、これが本課題に着手する時点での基本的な理解となっている。

本課題申請者は、近代ロシアの西欧受容の事情を明らかにする試みのもと、学振特別研究員(PD)としての研究期間に自然科学の果たした役割を考察し、その過程で1780年代のロシアの作品の中に登場する気球に関する記述と出会った。18世紀後半に初めてフランスで熱気球の飛行実験が成功し、ヨーロッパ諸国に大きな反響を呼んだ。ロシアにおいてもその影響は強く、当初はフランスに続いてロシアでも気球実験が試みられた。しかし結果的に、時を置かずに、ロシアでは国内での実験を大幅に禁止する法律が新たに施行され、事実上の公式実験は不可能となった。当時の皇帝エカチェリーナ2世の言葉によれば、禁止令は「火事や爆発等の危険を回避する」ためのものであったが、その後もこの「禁令」は強固に維持され、ロシアで有人飛行が実現するのはおよそ20年後に禁令が解除されてから、すなわちアレクサンドル1世の治世であった。このような歴史的背景を踏まえ、本課題申請者は、「気球」が単なる物体ではなく、フランス文化の表象、フランスのイメージとして機能し、ロシアの政府と社会において一定の役割を果たした可能性に関心を抱くことになった。

科学史の観点からロシアの気球事情を取り上げた研究はこれまでも存在したが、18世紀ロシア文学の研究において、作品の中に気球のモチーフを見出し、近代ロシア社会の文脈の中で横断的に考察し、さらにそれを西欧とロシアとの関係の中で問う作業はまだなされていない。

以上の研究事情を念頭に置き、見通しに基づいた研究の成果が得られるものと考え、本課題に着手するに至った。

2. 研究の目的

本研究は近代ロシア社会が形成されていくプロセスを、書簡、日記等を含む広義の文学作品に現れた外国文化受容の様相を考察することによって、明らかにしようとする作業の一環である。

18世紀のロシアは西欧の大きな影響下にあり、貴族階級では、18世紀後半～19世紀初めにかけては特に言語、作法、思想、芸術等の面で、フランス崇拝が顕著であった。しかし、当時の知識人が記した文章を辿ってみると、フランス文化に対する視点は必ずしも肯定的なものばかりではなかった。

18世紀末にフランス人、モンゴルフィエ兄弟がパリで実施した熱気球の実験に対する同時代ロシアの反応は恰好の事例である。フランス批判を窺わせる。気球実験の成功はヨーロッパ中に大きなインパクトを与えたが、ロシアでは単なる科学の進歩としてだけでなく、自国におけるフランス文化の意味を再考する契機にもなった。本研究では、気球についての記述をロシアにおけるフランス文化の受容の実態を顕在化させる恰好の例と考え、「気球」を扱った文章を調査し、この実態、すなわちフランス文化の「批判的受容」を通して、近代ロシア社会の形成過程の複雑な様相を明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

本研究においては、18世紀末～19世紀前半ロシアの書簡や日記を含む広義の文学作品を対象として、フランスでの気球実験の成功に関わる記述を調査し、「気球」の描写全般についても考察した。「気球」に関するそれらの文章の分析を通して、フランス文化およびフランス文化を崇拜することに対するロシアの君主と社会、特に知識層の批判的視点を明らかにすべく試みた。作業の開始時点では、収集した文章、作品を、気球禁止令施行前、禁止令施行期間中、そして19世紀、アレクサンドル1世時代の禁止令解除後の、三つの時期に分類した上で、考察を進めた。

本課題の遂行に際しては、ロシアの貴族層の西欧文化に対する姿勢を理解しておくこともまた前提であるため、気球のモチーフに加え、必要に応じて、当時の文献や歴史上の諸事件についても調査した。

調査にあたっては、ロシア文学研究所(サンクト・ペテルブルク)、ロシア国立図書館、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターの資料を活用し、研究交流を行った。

4. 研究成果

1783年11月にフランスで熱気球実験が成功してから、翌1784年4月にロシア国内で実験禁止令が施行された前後の時期に、エカチェリーナ2世の庇護下で発行された雑誌の中に、気球に言及した作品が複数掲載されており、本研究ではそれらに注目し、分析の対象としてとりあげた。また、それらが女帝の気球実験に対する批判的立場に影響を受けたものであることが、考察により明らかになった。

具体的に述べるならば、まず、この時期に女帝がヨーロッパ駐在の大使へ宛てた書簡には、彼女の気球に対する慎重な姿勢が示されており、これは上記の雑誌掲載作品の記述の方向性と合致するものであることがわかった。更に、禁止令発令後の1784年4月以降に発表された同誌掲載の詩においては、モンゴルフィエの名とともに、飛行に対するネガティブなコメントが詩の流れを中断するような形で挿入されている。これらの作品には、気球に限らず、盲目的なフランス崇拜に対する批判的視点が窺えるものも含まれていた。

むしろ、気球実験禁止令の発令後、気球に関する記述や、明らかに気球実験成功の影響を受けて書かれたと思われる外国文学の翻訳はロシアでも発表されており、気球のモチーフ自体の使用が妨げられたわけではなかったが、その場合でも、しばしば懐疑的な立場が認められたことは、興味深い。そうした立場の代表的な例は、「奢侈」に対する批判である。

18世紀ロシアの作家、カラムジン、ラジーシチェフ等の作品の中には、禁止令の期間中にも、「気球」やそれに準ずるモチーフといえる「飛行」の話題、モチーフが登場していた。しかし、そこには気球の、労力と莫大な費用を投じて初めて実現される贅沢な遊興としての側面の示唆も含まれており、これは、フランスのサロン社会にみる過度の奢侈性への非難に繋がるものであった。

19世紀初頭のアレクサンドル1世治下で、気球実験禁止令は解除された。1812年に大祖国戦争でナポレオンの遠征を体験したこともあり、19世紀初めはロシアで愛国心が高まる時期であった。禁止令解除後に登場した気球についての文章もまた、フランス文化の無批判な受容に対するロシア社会の反省と一定の関わりをもっていた可能性は推測される。

しかし、19世紀初頭の、解除後の時期においては、ロシアの文学作品ではより自由な立場から「気球」「飛行」の話題とモチーフが使用されるようになったことがわかる。例えばロマン主義作家のV.オドエフスキーの未来を扱った小説の中で、航空機は移動手段として重要な役割を果たしている。また、ブルガーリンの作品にも気球は登場するが、そこでは、フランス文化の表象としてよりは、むしろ、19世紀に社会の新たなインフラとして登場した鉄道と、前世紀の産物である気球が対比的に捉えられている。

研究を通じて得られた成果は、国内外の学会・研究会における研究報告と論文発表にまとめた。また、一部の成果については、現在論文で発表するために準備中である。

研究期間後半の新型コロナウイルス感染拡大や、ロシア・ウクライナを巡る世界情勢の変化を受け、国外、特にロシアでの資料調査や研究交流が困難となったことは、当初の研究計画において想定外であったが、作業の途中で、国内での文献調査やオンライン・セミナーによる研究交流に切り替えて、研究を遂行した。

今回の研究では、ロシアにおけるヨーロッパ受容の複雑な様相の一端が明らかになった。なお、今回の研究課題への取り組みを通じ、気球のような、歴史上の具体的事象を手掛かりとして文学テキストを社会的な歴史資料として捉える試みは、従来の文学研究に、新たな角度から光を当てることを可能にするという確信を得ることができた。この経験を生かし、新たな科研の課題「近代ロシア文学と時計がもたらした西欧の「時間」—皇帝・職人・作家の文章を中心に—」(若手研究2022年度)に着手するに至った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 金沢友緒	4. 巻 18
2. 論文標題 18世紀ロシアの出版物にみる西欧	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 18世紀ロシア研究会年報	6. 最初と最後の頁 pp.47-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 金沢友緒	4. 巻 59
2. 論文標題 . . .コソダヴレフと「啓蒙」 エカチェリーナ2世時代のロシアより	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ロシア文化通信 群GUN	6. 最初と最後の頁 p.3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 イヴァン・エサウーロフ（金沢友緒 訳）	4. 巻 49-14
2. 論文標題 ロシア文化の大きな時間におけるドストエフスキー（ロシア語からの翻訳）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 pp.93-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tomoo Kanazawa	4. 巻 0
2. 論文標題 Members of the Russian Elite and Their Study Experience in Germany	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Japanese Society for Eighteenth-Century Studies(2015年夏期の18世紀学会国際大会(ISECS in Rotterdam)における研究報告を学会サイトにて英文で掲示したもの)	6. 最初と最後の頁 pp.1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金沢友緒	4. 巻 17
2. 論文標題 18世紀ロシア文学における カラムジンに至るまで	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本18世紀ロシア研究会年報	6. 最初と最後の頁 pp.43-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢友緒	4. 巻 1
2. 論文標題 .	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 .	6. 最初と最後の頁 pp.122-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 金沢友緒	4. 巻 1号
2. 論文標題 .	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 .	6. 最初と最後の頁 57-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢友緒	4. 巻 74号
2. 論文標題 コジマ・ブルトコフ誕生日記念イベント 現代ロシアにおける文化伝承の一風景	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ロシア・フォークロアの会誌「なるうど」	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢友緒	4. 巻 37号
2. 論文標題 Artemy Semyonovich Bervenkovsky by A.K.Tolstoy and Literary Movement in 1840 ' s Russia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Japanese Slavic and East European Studies	6. 最初と最後の頁 50-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢友緒	4. 巻 14号
2. 論文標題 『北方郵便または新サンクト・ペテルブルグ新聞』における雑誌『子供博物館』の評価	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『日本18世紀ロシア研究会年報』	6. 最初と最後の頁 44-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢友緒	4. 巻 1
2. 論文標題 " . . .	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 200- . . .	6. 最初と最後の頁 399-405
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 マリヤ・ダニレフスカヤ(講演者) , 金沢友緒(イントロダクション、司会)
2. 発表標題 19世紀ロシアにおける作家と文壇 : . . . ネクラースフと同時代人
3. 学会等名 SRCセミナー (北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金沢友緒
2. 発表標題 『心と理性のための子供の読み物』(1785-89)の気象をめぐる「会話」
3. 学会等名 ロシア・フォークロアの会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金沢友緒
2. 発表標題 Flight Motif and Russian Publications at the End of the 18th and the Beginning of the 19th Centuries
3. 学会等名 ICCEES2020(International Council for Central and East European Studies) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金沢友緒
2. 発表標題 『ロシア語愛好者の友』誌と感情の主題
3. 学会等名 ロシア文学会関東支部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金沢友緒
2. 発表標題 近代ロシアと多言語書籍の文化 エカチェリーナ2世からアレクサンドル1世へ
3. 学会等名 北海道大学スラブ研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金沢友緒
2. 発表標題 挿絵付き図書と18世紀後半ロシアの『帝国諸民族衣装集』
3. 学会等名 ロシア・フォークロアの会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金沢友緒
2. 発表標題 19世紀ロシアの作家にみるハイネ受容：ロマン主義文学を超えて
3. 学会等名 日本独文学会秋季研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金沢友緒
2. 発表標題 カラムジンと
3. 学会等名 日本18世紀ロシア研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金沢友緒
2. 発表標題 " " " "
3. 学会等名 明治大学主催、早稲田大学ロシア研究所共済研究会〔ロシア人〕研究者N.N.ペトルヒンツェフ教授招聘による
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金沢友緒
2. 発表標題 近代ロシアと「飛行」をめぐるテキスト
3. 学会等名 ロシア・フォークロアの会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金沢友緒
2. 発表標題 " " . . . :
3. 学会等名 会) : 200 . . . (国際学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金沢友緒
2. 発表標題 The Role of Educational Periodicals in the Era of Catherine the Great
3. 学会等名 the ISECS International Congress on the Enlightenment (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金沢友緒
2. 発表標題 " " . . .
3. 学会等名 . (国際学会) , 200- . . .
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金沢友緒
2. 発表標題 近代ロシア文学にみる愛国主義と異文化受容
3. 学会等名 日本比較文学会東京支部例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金沢友緒
2. 発表標題 'The Significance of the Balloon Motif in the Development of Modern Russian Culture'
3. 学会等名 British Association for Slavonic and East European Studies (BASEES) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 ロシア・フォークロアの会 編著(共著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東洋書店新社	5. 総ページ数 237
3. 書名 ロシアの歳時記	

1. 著者名 金沢友緒(分担執筆) ロシア・フォークロアの会編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東洋書店新社	5. 総ページ数 111
3. 書名 『ロシアの歳時記』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------